

## 学校ビオトープ実施校への アンケート調査結果から見えてきた課題

- 学校ビオトープの活用に向けて  
…これからすべきこと -

日本ビオトープ管理士会徳島支部  
学校ビオトープ担当 佐藤登子

## ～ アンケート調査結果から見えた課題～

『?????生きものクイズ - 自然ってなんだろう - ?????』

### 調査概要

対象学校: 徳島市立小学校(ビオトープ取り組み校)  
対象学年: 4年生(112名)、5年生(105名)、6年生(105名)  
4年生(104名)、5年生(104名)、6年生(100名)、計308名  
調査目的: 自然や生き物がくらす場所について学年別の認識度調査  
5年生は、1年間の学校ビオトープとの関わりを通してどう変化したか、活動前後の比較評価を行う予定。  
6年生は、昨年度の学校ビオトープとの関わりを通して、どの程度認識しているかを知る。  
調査時期: 2005年7月(活動前の調査)  
質問内容: 『?????生きものクイズ - 自然ってなんだろう - ?????』  
日本ビオトープ管理士会徳島支部

2

## ～ アンケート調査結果から見えた課題～

### 質問内容

1. 生き物がくらす場所について(学校内にあるかどうか)
2. 生き物がくらす場所について(環境タイプの異なるビオトープ)
3. 食物連鎖について(チョウとクモ)
4. 野生生物とペットについて(ツバメのヒナとネコ)
5. 外来生物について(学校に来てほしい生きもの)
6. 生き物や自然に対する気持ち(学校内にほしいかどうか)
7. 自然や生き物がくらす場所についての質問

日本ビオトープ管理士会徳島支部

3

## ～ アンケート調査結果から見えた課題～

### 活動状況

総合学習の時間  
5年生のテーマ: ビオトープ  
3時間/週(年間110時間程度)  
2004年度 5年生(現6年生)  
・調査と学習、設計図、模型づくり  
・既存の「ひょうたん池(コンクリート池)」を改修整備  
2005年度 5年生  
・観察路と原っぱづくりの予定  
・ビオトープ勉強会(ビオトープ、植物について)

日本ビオトープ管理士会徳島支部

4

## ～ アンケート調査結果から見えた課題～

### ビオトープ整備前の状況

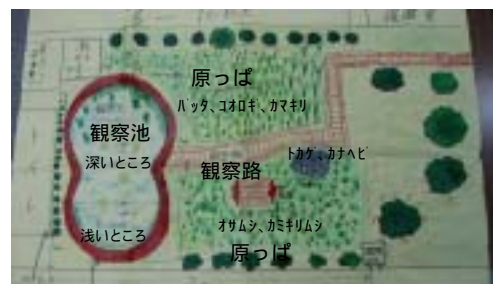


日本ビオトープ管理士会徳島支部

5

## ～ アンケート調査結果から見えた課題～

### 設計図



日本ビオトープ管理士会徳島支部

6

～ アンケート調査結果から見えた課題～

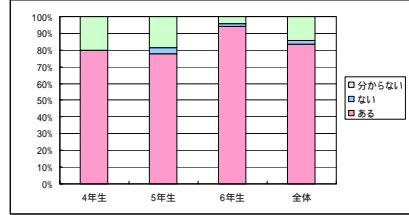
ビオトープ整備後の状況



日本ビオトープ管理士会徳島支部

～ アンケート調査結果から見えた課題～

**結果** 問1 学校内で生き物がくらしている場所があると思うか？



草や木などの植物がある場所を答えた児童「半数以上」  
ひょうたん池(学校ビオトープ整備池)のみを答えた4年生:約4%、5年生:約8%、6年生:約30%

日本ビオトープ管理士会徳島支部

～ アンケート調査結果から見えた課題～

**考察** 問1 学校内で生き物がくらしている場所があると思うか？

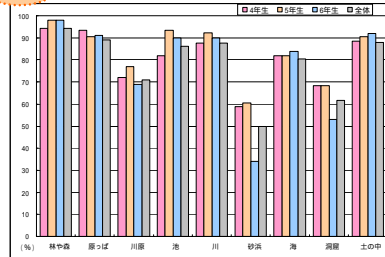
・4、5年生と比べて6年生は学校内に生き物がくらしている場所があるという認識が高い 若干の成果が得られた？

・ひょうたん池のみを答えた6年生が多いのは…  
5年生の時の1年間、ビオトープづくりに関わったことが印象に残っている学校ビオトープをつくったことで、生き物がくらす場所(ビオトープ)というものが人の手でつくられた特別な場所として認識してしまった？

日本ビオトープ管理士会徳島支部

～ アンケート調査結果から見えた課題～

**結果** 問2 - のうち生き物がくらしている場所は？



木がたくさん生えている林や森  
草がたくさん生えている原っぱ  
石がごろごろした川原  
水がたまっている池  
水が流れている川  
砂がたくさんある砂浜  
夏に泳ぎに行く海  
暗い洞窟の中  
畑や田んぼの土の中

「林や森」「原っぱ」「池」「川」「海」「土の中」は全ての学年で「80%以上」  
6年生の「砂浜:34%」「洞窟:53%」と他の学年と比べ低い

日本ビオトープ管理士会徳島支部

～ アンケート調査結果から見えた課題～

**考察** 問2 - のうち生き物がくらしている場所は？

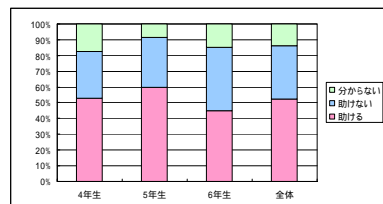
・草や木などの植物が生えた場所は生き物がくらす場所として十分理解している。  
水がある場所や土の中にも生き物がくらしていると理解している。  
学校や家の周りなどに身近にあって、遊んだ経験がある。

・川原、砂浜、洞窟などの石や砂、岩などの場所に生き物がくらしているという認識が低い。  
そういう場所で遊んだ経験が少ないのでは？

日本ビオトープ管理士会徳島支部

～ アンケート調査結果から見えた課題～

**結果** 問3 チョウがクモの巣に絡まっていたら助けるか？



「助ける」と答えた児童は、5年生が「約60%」で一番多い  
「助けない」と答えた児童は、6年生が「約40%」で1番多い

日本ビオトープ管理士会徳島支部

～ アンケート調査結果から見えた課題～

考察

問3 チョウがクモの巣に絡まっていたら助けるか？

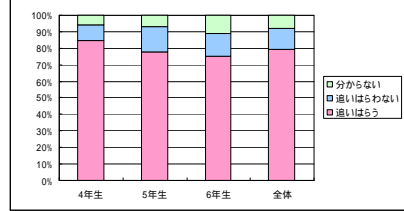
・クモからチョウを助ける その理由は…イメージ  
チョウがかわいそう  
クモは気持ち悪い、悪者

・クモからチョウを助けない 6年生が一番多いが…  
若干の成果が見られるが、理解しているとはいえない、  
微妙な数値

～ アンケート調査結果から見えた課題～

結果

問4 ツバメのヒナがネコに狙われていたらネコを追いはらうか？



「追いはらう」と答えた児童は、全ての学年で「70%以上」  
学年が上がるにつれて「追いはらう」と答えた割合が「減少」

～ アンケート調査結果から見えた課題～

考察

問4 ツバメのヒナがネコに狙われていたらネコを追いはらうか？

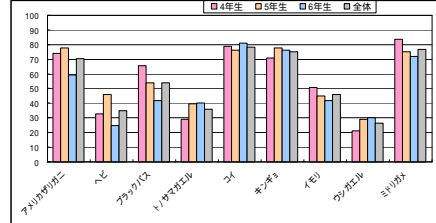
・ネコからヒナを守る その理由は…  
ヒナがかわいそう

・学年が上がるにつれて微量ながら減少…  
クモとネコの違いを理解するのは難しい？  
「ネコもおなかですいているんだ」といわれたら？どう答えるべきか

～ アンケート調査結果から見えた課題～

結果

問5 ~ のうち学校の池に来てほしいと思う生き物は？



アメリカザリガニ  
ヘビ  
ブラックバス  
トノサマガエル  
コイ  
キンギョ  
イモリ  
ウシガエル  
ミドリガメ

「コイ」「キンギョ」「ミドリガメ」は全ての学年、「アメリカザリガニ」は4、5年生で「70%以上」  
「トノサマガエル」「ウシガエル」は全ての学年、「ヘビ」は4、6年生で「40%以下」

「外来種のカブトムシやクワガタムシなどの昆虫」  
「サソリやタランチュラ、コブラなどの危険な生き物」

～ アンケート調査結果から見えた課題～

考察

問5 ~ のうち学校の池に来てほしいと思う生き物は？

・「キンギョ」や「ミドリガメ」 お祭などで売られている、かわいい  
・「コイ」 学校の池などで飼われている、色鮮やかできれい  
・「アメリカザリガニ」 用水路にいる、かっこいい  
どれも身近な生き物

・「カエル」や「ヘビ」 カエルは身近にいるものの、気持ち悪い

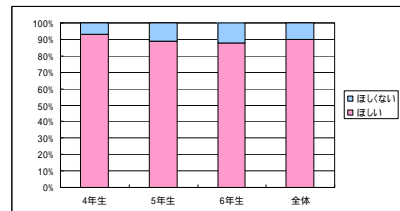
・「コイ」「キンギョ」「ミドリガメ」は、学年の差は見られない  
観賞用、外来種としての認識は浸透していない  
・「アメリカザリガニ」「ブラックバス」は、6年生が来てほしいと思う割合は4、5年生と比べて若干低い  
外来種としての認識が浸透？  
ブラックバスは釣りの経験で生息場所などの知識を得た？

・「外来種の昆虫」 「ムシキング」の影響は明らか

～ アンケート調査結果から見えた課題～

結果

問6 学校内に生き物がくらす場所がほしいか？



「ほしい」と答えた児童は全ての学年で「約90%」

学年が上がるにつれて「ほしい」と思う割合が「減少」

## ～ アンケート調査結果から見えた課題～

### 考察

#### 問6 学校内に生き物がくらす場所がほしいか？

どんな場所がほしいか？  
特定の昆虫が棲める場所

#### ・生き物がくらす場所が必要

くらす場所があるから生き物がいる(4年生)  
たくさんの虫が卵を産んで生命を受け継いでいく所(5年生)  
生き物にも自分たちと一緒の命がある(5年生)  
最近生き物のくらす場所が減ってきている(6年生)  
人間が壊しているのに、人間が通らない所(6年生)

#### ・どう教えていくべきか？

世界中の生き物(4年生)  
虫と虫が殺し合いをしない場所(5年生)  
チョウやトンボなどの害の少ない生き物がこれる場所(6年生)  
どんな生き物でも棲める場所(4～6年生)

#### ・なぜほしくないか？

生き物は気持ち悪い、嫌い、怖い(4～6年生)  
子どもが捕ってしまって早死にする(5年生)

日本ビオトープ管理士会徳島支部

19

## ～ アンケート調査結果から見えた課題～

### 調査結果からわかったこと

- (1)草や木などの植物がある場所、水がある場所は生き物の生息地であるという認識は高い。
- (2)石や砂、岩などの環境に生き物が生息しているという認識は低い。
- (3)「ビオトープ」を正しく理解しているか改めて確認する必要がある。
- (4)「食物連鎖」や「食う・食われる」の関係など、自然生態系について理解しているか改めて確認する必要がある。
- (5)ペットや観賞用、外来種といった認識は極めて低い。(ない)
- (6)生き物に対して、「好き」や「嫌い」、「かわいい」や「気持ち悪い」といった、感情的なものが先行している。
- (7)生き物や自然環境は必要であり、身近にあったほうが良いと感じている。

日本ビオトープ管理士会徳島支部

20

## ～ アンケート調査結果から見えた課題～

### 調査結果から見えた課題

#### (1)ビオトープの理解

- ・「ビオトープ」という言葉のひとり歩き 特定の場所を指す言葉
- ・「ビオトープ」は人間によってつくられた自然環境であるといった誤解

#### (2)自然生態系(つながり)の理解

- ・生き物と生き物がお互いに影響し合うことでバランスが保たれている
- ・「人間が望む環境 = 自然環境」ではない 嫌いな生き物も来る



#### 【学校ビオトープづくりから活用へ】

- 生き物同士のつながりを学び、自分との関わりを理解する場へ -

日本ビオトープ管理士会徳島支部

21